

## 自然体験イベント事故情報

事故名	ミツバチに刺されて1週間後に腫れる	被災者	年齢 30歳代	性別 女性
事故状況	発生日時 2023年 6 月 10 日 (土) 21時			
	発生場所 公園・ <span style="border: 1px solid black;">里山</span> ・海・川・溪谷・その他 (小学校校庭)			
	事故状況 (何をして、どのように、どうなった) 屋外のテーブルで受講生と懇談中、ミツバチに右手を刺された。直後に腫れたが翌日に腫れが引いたのでそのままにしたら、1週間後にひどく腫れだしたので、受診した。			
事故処置	誰が、どのように処置 刺された直後、本人が針を抜き、スタッフがポイズンリムーバーによる毒抜き、虫刺され薬塗布、絆創膏貼付した。直後から右手全体が腫れたが、翌6月11日(日)夜には腫れが引いたため医療機関は受診しなかった。 6月17日(土)朝から再度右手が腫れ、6月19日(月)朝になっても腫れが引かなかったため、皮膚科を受診。塗り薬と飲み薬を処方され、服用中。6月20日(火)午後の段階で概ね回復。			
	ケガの部位・症状 右手甲側中指付け根部分。6/10-11は腫れ、僅かな熱感。6/17-19は極端な腫れ、熱感、痒み			
	推定原因と再発防止策は (分かる範囲で記入下さい) 蜂に刺された際は、速やかな毒袋の除去と、水洗する対応を徹底する。 再燃の可能性を考慮し、必ず医療機関を受診する。			
総務部会コメント	<p>○今回の事後処置は適切であったと考えられるが、一週間後に腫れたのは毒袋が残っていた可能性が考えられるので充分ではなく、大量の水で洗い流すなどが必要だったのではないかと。</p> <p>○ハチに刺された際に最も危険なのはアナフィラキシーであるが、息苦しさや意識障害などがでたら救急搬送が必要。つねに不足の事態を想定した活動が必要である。</p> <p>○毒虫やハチの種類についても対応が異なるので、スタッフは一定の予備知識が必要であり、協会としても研修会を開催するなどして知識の共有を図りたい。</p> <p>○刺されないように予防することが重要で、長袖・長ズボンでハチの巣の周辺は避け、ミツバチの場合、甘い飲み物や各種の匂いに反応するので注意が必要。スズメバチの場合は黒い服装を避けるなどの注意が必要。</p>			